

小金井市学校施設長寿命化計画（案）に対する意見及び検討結果について

意見募集期間：令和3年2月4日から3月3日まで

意見提出数：8人・16件

番号	項目	寄せられた意見	意見に対する検討結果
1	第2章 学校施設の実態 (児童生徒数及び 学級数の変化)	<p>長寿命化のコスト見通しについて。現在の前提条件を考えると長寿命化た建替に関しては、財政状況が芳しくなく、既存の公共の建物も全て維持するという方針の下では致し方ないと思います。ですが、再度ご検討いただきたい点がいくつかあります。</p> <p>1) 現状の計画は3年生以上は1学級40人で計算されていると思いますが、2021年から文科省が、全ての学級で35人学級にすると計画を打ち出しています。</p> <p>中央線沿いの学校に関して、転入による増加とさらに、1学級の児童数が減ると、必要な教室がさらに必要になるのではないのでしょうか。</p> <p>この計画には、その文科省の1クラス35人で対応しきれぬのか検討は行われていますでしょうか。</p> <p>学区の調整を早めに行う。もしくは、自由選択で申込を行い、遠方の児童から第2希望の学校に割り振るなどの、準自由選択制の学校選びに制度を変更すべきではないのでしょうか。学区の調整が思いの他大変だと聞いています。通学路に沿って歩いた場合の距離ならgoogleで測定できるはずで、「距離」を基準に選定す</p>	<p>35人学級については、令和3年度に小学校2年生において実施し、その後学年ごとに順次引き下げ、令和7年度に全学年を35人学級とするとして段階的に実施していくものと文科科学省が計画を示しております。</p> <p>長寿命化計画においては、計画案作成の終盤に打ち出された施策ということもあり、現時点ではこの施策に対する検討は具体的には行っておりませんが、小学校における児童数の増加及び教室数の増加に対しては、計画案の中で示しておりますとおり、増加傾向が特に顕著な小学校に対しての増床分を見込んでおり、建替えや長寿命化改修工事の際に必要な仮設校舎を有効活用するなど、ハード面に対応できることを着実に行いつつ、学区の弾力的な運用などソフト面での対応を図ることが必要と考えております。</p> <p>重要なのは児童数の変動予測における教室等のスペースの需要とタイミングを見ながら適切かつ確実に対応すべきものと考えますので、御意見を踏まえまして第5章の継続的運用方針の3フォローアップ(P37)の部分に35人学級についての記載を追加することとします。</p>

		<p>ることも一案だと思います。</p> <p>第三小学校は、児童数増加の圧力がベースにあり、建て替えて教室が不足。さらに1クラスの人数が減れば3年生以上でクラスが最低でも、1クラス増えることとなります。</p> <p>文科省の新しい方針を見込んだ計画になっているのか、なっていないのであれば、その辺の懸念はどう解決していく方針なのか、示した方が良いと思います。(不安が募るだけなので)</p>	
2	<p>第4章 長寿命化の実施計画 (今後必要な検討の方向性)</p>	<p>2) 貸し館事業が殆どで独自に「まちづくりひとづくり」に貢献していない建物をリストラし売却した資金で学校建て替えや長寿命化をスピードアップできないモノでしょうか。代替案としては、空き家を公民館と使えるよう、場所の整備は地域の利用希望者が協力。空き家の利用については、市が保証人になる形です。空き家を利用すれば、貸し館事業しかしていない集会所は費用対効果が薄く、公民館で浮いた要員を別にまわすことも可能かと。空き家の運営・管理は地域の自主運営グループに委託。</p> <p>運営状態のチェックを市が行えばよいと考えます。地域の集会所と学校の設備では公共性が大きく異なります。</p> <p>人口減校区の小学校はコミュニティールームでの利用も見込んで集会所などをリストラしていくべきでしょう。</p> <p>安いスペース貸ししかできない集会所を維持するほど</p>	<p>本市では、平成29年3月に、市の所有する全ての公共施設等を対象として小金井市公共施設等総合管理計画（以下「総合管理計画」という。）を策定しています。総合管理計画では財源不足への対応を図るため「総量抑制」と「将来更新費用及び維持管理費の縮減」を基本目標に掲げています。また、目標の実現のために基本的な考え方を定め、公共施設等の最適化のために集約化、複合化、用途変更及び長寿命化等の施策を推進することとしています。</p> <p>いただきました御意見については、今後の施設のあり方を検討する上で、参考として受け止めさせていただきます。</p>

		<p>小金井市は余裕は無いはずで スペースにおける住民福利厚生は、空き家をベースに 地域で考えるべきでしょう。 以上</p>	
3	<p>第2章 学校施設の実態 (学校施設の配置 状況) (児童生徒数及び 学級数の変化)</p>	<p>お世話になります。 施設の長寿命も大事ですね。 ですが学区の変更も併せて考えたいですね。 うちは二小ですが小金井街道の反対は緑小です。 通りがあるから仕方ないとはいえ本町二丁目から通っ ている子どもがいますので、小金井街道を渡っている から、同じことじゃないかなと思うんですよね。学校 を中心にコンパスで円を引くように、グレーゾーンを 作りそこに重なる子たちはどちらか選べるようにすれ ばどうでしょう。 学区の変更をすることで人数の偏りが無くせそうで す！ 息子は二年の時まで3クラス三年で二クラスになりま した。 同じ学年で3小に行ってる子は4クラスだったかと思 います。</p>	<p>学区の変更に関しましては、一定の条件がそろった学校の児童 数の増加に対して、ある程度有効な方策であると考えます。 計画の中で示しておりますとおり、特に増加傾向が顕著な小学 校に対しての増床分と建替えや長寿命化改修工事の際に必要な 仮設校舎を有効活用するなど、ハード面で対応できることを 着実に行いつつ、学区の弾力的な運用などソフト面での対応を図 ることが必要と考えておりますので、御意見として受け止めさせ ていただきます。</p>
4	<p>第2章 学校施設の実態 (学校施設の老朽 化状況)</p>	<p>もちろん通ってる子どもたちが居ますので施設の安全 は急務です。特にトイレ！！ 私も二小に通っていましたがトイレの印象が変わって いません。</p>	<p>施設の安全性やトイレの更新等を実施することによって、子供 たちにとって安全・安心で快適な学習環境、生活環境の提供につ ながると考えます。 令和3年度末までに、市立小・中学校のトイレ洋式化率50%</p>

		ボランティアでトイレ掃除行きたいと考えました。	を目指し取組みを進めています。 いただきました御意見については、今後の参考として受け止めさせていただきます。
5	第4章 長寿命化の実施計画 (今後必要な検討の方向性)	空いている教室は ●子育てママの支援サロン ●習い事の貸し教室 ●着付け教室 ●瞑想室 ●古着販売 ●体操教室 ●お茶会 ●手芸教室 など、多様な事業を取り入れ子ども達への社会性を学ぶ一端にすることもできます。 市議会を学校で開くのも良いかも知れませんよ！？ 移動議会、そして観覧できる。 より政治も身近な存在になりますね。 それでは長くなりましたがお役に立てれば嬉しいです。 よろしくをお願いします。	空き教室を利用し多様な事業を取り入れ、子供たちの学びとしてはどうかとの御意見に関しては、児童生徒数が今後も増加していく傾向である点や、長寿命化改修や改築によって生み出される余剰教室等のスペースの限度、学校運営における防犯面での課題等を踏まえながら、個別学校の敷地条件や地域の特性なども加味して、具体的な設計段階で出来ることを検討していきたいと考えます。
6	第4章 長寿命化の実施計画 (改修等の優先順位付け)	これから児童数が増える三小を先行して進めることに関しては妥当かと思えます。ただし以下の点を最大限配慮していただきたいです。 ①現在の3年生以下の子どもが今回の計画の工事期間中に在学することになります。今年度、場合によっては来年度以降もコロナ禍で学校行事に受けている(受ける)子どもたちが、次は校舎建て替え等のために運	長寿命化及び改築の工事期間中の学校行事について、可能な限り通常通り行えるような配慮をしたいと考えておりますが、個別の事業を進めるにおいて、大規模な工事となるため、どうしても仮設校舎を校庭に建設する等により、校庭が一部使用できなくなるなど一定期間の負担をお願いすることがあるかと考えられます。 その際の代替え案として、運動会等の大規模な行事に関しては

		<p>動会など学校行事を通常通り行えなくならないようにしてください。</p>	<p>近隣の公園を利用することや、常日頃の校庭の利用に関しては頻度を分散して使用するなど運用面での対応など可能な限りの配慮を行う考えであります。子供たちや保護者を含む学校関係者、近隣の皆様などにご協力をお願いすることもあるかと思っておりますのでご理解いただきたいと考えております。</p>
7	<p>第3章 学校施設整備方針 (施設整備の水準)</p>	<p>②せっかくの機会ですので、学習効果があがるという研究結果が出ている内装木質化を計画に含めていただきたいです。情緒面への好影響もあると言われております。また伐採期、利用期を迎えている国産材を使用することは国策とも一致するものです。これから地域が連携して子どもの教育について関わっていくうえでも、地域に愛される施設にすることが大事だとも思います。</p> <p>以上、よろしく申し上げます。</p>	<p>内装木質化については御意見のとおり、子供たちへの情緒面への好影響や地球環境への配慮、地域経済の振興、木質化後の維持管理のしやすさなどの様々な観点から検討すべきことと認識しております。今後、個別に検討を要する事業となりますので、御意見として受け止めさせていただきます。</p>
8	<p>第4章 長寿命化の実施計画 (今後必要な検討の方向性)</p>	<p>P36 ◆プールの共用化、民間委託</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年(H30年)3月20日「小金井市公共施設マネジメント市民講演会」に参加しました。千葉県佐倉市の学校内プール廃止、民間スイミングスクールの活用の例は大いに参考になりました。 ・例えば、三小→メガロス、本町→オアシス、四小→(国分寺) マックススポーツを早朝9:00-10:30借りる。1日1学年で月～土で全学年実施できる。移動は徒歩または送迎バス。しかし民間スポーツ施設は撤退する可能性もあるが。 ・緑小→緑中、二小→一中、前原小→南中、南小→二 	<p>御意見のとおり、これからの水泳指導の在り方を検討するためには、単なるプール設備の長寿命化や更新を行うだけでなく、プール指導をアウトソーシングし、専門家による指導を行うことによって効率性を上げること、また気候変動により指導時間がこれまでと変わっておりプール指導が適切にできなくなっている実態、教員の業務負担の変化に伴う働き方改革への影響、さらには各校の既存プールが地域の防火水利である事や、発災時に学校施設が避難所となった際のマンホールトイレの水源利用等、既存プール設備の老朽化や維持管理コストなど様々な面から検討して判断していく必要があると考えております。</p>

		<p>中のプールを使う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一小、東小、(四小) は生徒数増加が見込まれるので自校プールを整備活用する。当面、 ・自校プールを(いずれ) 廃止した学校の敷地には、市民利用もできる(学童放課後でも) 建物設置も考えられる。 ・例えば、南中のプールを屋内化すれば、夜間など市民利用ができる。(南西地区は市の体育館プール、栗山プールに遠い) 中学の水泳部も活動できる。 ・特別学級の水泳指導については別枠で考えるべきかもしれない。栗山プールの利用など。 ・水泳指導に関しては水泳協会と協同できるかもしれない。 	
9	<p>第4章 長寿命化の実施計画 (今後必要な検討の方向性)</p>	<p>P36 ◆統廃合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東中は二中に統合してもよいかもしれない、地理的に二中がもう少し東に移転できるとよいが。 	<p>学校施設を統廃合するといった方策は、御意見のとおり公共施設の総量抑制の観点からは有効と考えます。</p> <p>第4章の今後必要な検討の方向性(P36)では市南部に位置する小規模化が進む学校や大規模化を維持する学校など状況がさまざまである小中学校において、「適正規模・適正配置」の検討の方向性を示しております。また長寿命化計画と連動して推進すべき改善方策メニュー例として統廃合も含めて将来的には検討することとしております。</p> <p>小金井第二中学校と東中学校ともに、「適正規模・適正配置」校に位置付けており、今後の生徒数の変化に応じて計画の見直しを図り、学区の見直しや統廃合を検討していくことになると考えております。</p>

1 0	<p>第4章 長寿命化の実施計画 (今後必要な検討の方向性)</p>	<p>P36 ◆児童生徒数の変化に柔軟に対応 ・生徒数増加で教室不足が見込まれる、四小、一小、東小、さらに本町小・三小は、増築するとしたら、将来生徒数が減る場合にそなえて、市民活動に使えるような設計にする。幼児・学童・老人など、別棟に。 以上 意見といえるほどのものではなく恐縮ですが送付いたします。</p>	<p>御意見のとおり、個別の学校施設の設計にあたっては、将来的に空き教室などを転用する場合に備えて、建物のしつらえを構造体は可能な限り「柱」と「最小限の壁」による空間構成とし、間仕切壁は可変性のある構造の壁にすることにより、普通教室としたり、将来的には壁を取り払い地域に開放できるような広い空間の会議室などに転用できる工夫をしていきたいと考えてございます。</p> <p>また、幼児・学童・高齢者などによる本来の学校施設と目的の異なる使用が想定される場合について、別棟での整備が理想ではありますが、既存の校舎棟の建替えや既存校舎を利用した長寿命化改修では対応が限られる部分があるため、可能な限りそれぞれの動線が交差しないような計画としたいと考えております。</p>
1 1	<p><全般></p>	<p>初めてパブリックコメントを書かせていただきます。計画を拝見しましたが、まず全体として、申し訳ありませんが文章が長くて、背景、各論、本筋から逸脱する話などが混在、また抽象的な表現も多かったように感じられ読みづらいと思いました。 外部に説明する資料はもっとコンパクトかつ具体的に、そしてロジカルにご説明いただけるとありがたいです。 その上で私見を述べさせていただきます。</p>	<p>文章表現について、貴重な御意見をいただきありがとうございました。御意見として受け止めさせていただきます。</p>
1 2	<p><全般></p>	<p>■学校施設における課題認識 1. 老朽化による安全性の低下 2. 維持コスト 3. ICTや新しい教育方法、バリアフリー化への対応 4. 児童生徒数の変動への対応 上記の内、まず1については正しく安全性を評価し、</p>	<p>1について、第2章の学校施設の老朽化状況(P11～P19)にて、既存データや現地調査による評価を行っております。 この中では構造躯体と構造躯体以外というようにカテゴリ分けして評価を行っておりますが、これらの調査情報と築年数などを一元管理できるようにしたものが建物情報一覧(P20～P23)となります。今後、建物情報一覧に施設情報を集約して、全体を俯</p>

	<p>必要なところにきちんと対処をしていただければよい、ということかと思えます。</p> <p>その方法論（長寿命化、建て替えなど）については、必要な強度に回復できる前提で</p> <p>2 で挙げたコスト比較（短期・長期両面の評価）で判断すれば良いと思えます。</p> <p>但し、その際に施工によって発生する機能低下と、それを補うための施策のコストも含める必要があると思えますし、この後挙げる3、4のコメントにもあるような内容を踏まえた正しい比較による判断をしていただきたいと思えます。</p> <p>次に3についてですが、現代のICT教育に於いて必要なモノは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デバイス（ノートPCなどのモバイル型） ・構内LAN、インターネット ・セキュリティ（EDRやWebフィルタ、周辺機器制御など） ・ストレージ（データの保存場所） ・大型モニタまたはプロジェクタ ・各席への電源アダプタあたりかと思えます。 <p>デスクトップPCを使っていた時代と異なり、PC室が不要になる代わりに各教室へ無線LAN環境、大型モニタまたはプロジェクター、PCを保管する施錠可能なロッカーなどが必要になるはずですが、これらは長寿命化だろうと建て替えだろうと準備しなくてはいけません。</p> <p>つまり、これらのことを実施できるかどうかという話</p>	<p>瞰しつつ、長寿命化や建替えの大まかな方針をマネジメントして活用してまいります。</p> <p>2及び3について、同じく第2章の今後の維持・コストの試算（P24～P27）のなかで、「建替え」37万円/㎡、「大規模改修（長寿命化改修）」20万円/㎡などと、単位面積当たりの想定単価にてコスト試算しております。この単価のなかにはICT化やバリアフリー化などを図るにあたって、建物の機能として必要な対応（ICTについてはLAN配線などに必要な隠蔽部の先行配管や各種制御盤・各種デバイスや周辺機器の置き場・大型モニタやプロジェクター取付部分の建物側の下地補強・それらについて適切な位置及び容量での電源の用意など、またバリアフリーについてはエレベータやスロープ・手摺など）が一定程度加味された金額となっております。これらを実施する前提で想定したコスト比較、試算であるということを御理解いただければと思えます。</p> <p>また、計画案のなかでは長寿命化改修か建て替えかの判断は基本的には建物の築年数と構造躯体の評価（既存資料によるコンクリート圧縮強度が13.5N/mm²以下を改築と判断）によって判断しております。</p> <p>その他、既存の構造躯体が今後も長期にわたって使用できると判断される建物に関しては「長寿命化」として判断しており、これらを含めて今後、個別の学校において、第2章の学校施設の老朽化状況（2）構造躯体の健全性（P12）にありますとおり、構造躯体の詳細な調査とあわせて工事実施段階で総合的に「長寿命化」か「改築」か判断するものと御理解いただきたいと思います。</p> <p>4について、御意見のとおり、個別の学校施設の設計にあたっては、空き教室などを転用する場合に備えて、建物のしつらえを</p>
--	---	--

	<p>は長寿命化 or 建て替えの議論とは切り離せるはずで す。 ただしコストについては影響があると思います。 当然古い施設には床下ケーブルスペースや各席への電 源がないためコストがかかる割に利用できる期間は短 い（建物の建て壊しまでしか使えない）はずですので それらを加味して apple-to-apple での総額コスト比 較をした際に長寿命化か建て替えかの判断をすべきか と思います。 バリアフリー化についても同様に、実施前提の上で、 既存設備をバリアフリー化した場合のコストとパフォ ーマンスを加味して判断すべきかと思います。 最後に4ですが、生徒数が大きく変動する時代に於い ては学校を学校としてのみ考えるのではなくフレキシ ビリティを重視した設計とし、「公共施設」として捉え るべきです。 つまり、空いた教室を別用途に転用できることを前提 とし、例えば学校の昇降口とは別の出入り口を用意し たり可動式の仕切りによりひとつの建物を複数の用途 で利用可能なのではないかと思います。（こういう設計 は建築家の得意とするところだと思います。） これにより、空いた教室が例えば役所、福祉施設、図 書館、コミュニティ施設、場合によっては収益事業用 途などで利用できれば2のコストもそもそもの捉え方 が変わってくる可能性がないでしょうか。 素人の意見ですので的を射ていないコメントとなっ ていましたらご容赦ください。</p>	<p>構造体は可能な限り「柱」と「最小限の壁」による空間構成とし、 間仕切壁は可変性のある構造の壁にすることにより、普通教室と したり、壁を取り払い地域に開放できるような広い空間の会議室 などに転用できる工夫をしていきたいと考えています。</p>
--	---	---

1 3	<p>第3章 学校施設整備方針 (学校施設の目指すべき姿)</p>	<p>書面を見ると、老朽化が進んでいることは分かり、建て替え等が急務なことは分かった。</p> <p>一方で、GIGA スクール構想、開かれた学校づくり、コロナ対応、インクルージョンといった視点が、計画案にはほぼ抜け落ちている。p28 には整備、向上、推進といった抽象的な言葉でまとめられているのみである。</p> <p>例えば giga スクール構想では、より大きな机、多様な学習活動のための多目的室の整備、アクティブラーニングのための円形テーブルなどの整備が具体的に挙げられている。小金井市として、今後 80 年間、つまり 2100 年の学校像をどう捉え、どう整備していくかを具体的に考えていくことがまず必要なのではないか。</p> <p>そのプランがないのにもかかわらず、ただ新しく校舎を建て換えます、では、50 年前と同じような校舎を 80 年後も使うことになるだろう。</p> <p>市長が子育て環境ナンバーワンを謳うのであれば、どのような教育観、学校観を持っているのか、明確にしてほしい。</p>	<p>学校施設整備方針 (P28) に記載されている内容は、現時点で想定される今後の「学校施設の目指すべき姿」の大枠を整理したものととなります。</p> <p>長寿命化計画を推進していくうえで、実際の施設整備にあたっては、各学校が抱えている課題や地域特性、社会背景などを踏まえながら個別に課題解決を図りつつ、学校施設整備方針に示された「学校施設の目指すべき姿」をひとつの指標として、具体的に設計や工事实施を行って具現化していくものと考えております。</p> <p>また今後、施設のハード面に求められる性能もそうですが、学校教育を取り巻く環境の変化や、児童生徒数の動向などの社会環境の変化などの将来変化が想定され、「学校施設の目指すべき姿」も時代にあわせて変化する必要があると考えております。</p> <p>本計画の推進のため、継続的運用方針として、上記したような将来変化を反映して 5 年ごとに計画の見直しを行うこととしており、都度、時代の変化に対応すべく検討していくこととしております。</p>
1 4	<p>第4章 長寿命化の実施計画 (改修等の優先順位付け)</p>	<p>第一子を妊娠した時から待機児童に悩まされて、やっと一歳児の子供の保育園が決まり、方向性が落ちてきたと思ったら、今回の建て替え計画を聞き、とても驚愕しました。</p> <p>今、歩き始めた一歳の子供がいて、■■■■小学校→■■■■中学校に行く予定ですが、この計画ですと、小学校 5.6 年生。中学 2.3 年生が建て替え期間になる計算になるかと思えます。もしかしたら、計算違いかもしれ</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>長寿命化計画の優先順位付けにつきまして、第4章の改修等の優先順位付け (P32) に示しているとおりであります。</p> <p>これらを踏まえた形での計画ですと、お子様は4年間の学校生活を仮設校舎にて送られることとなりますが、第5章の継続的運用方針・3フォローアップ (P37) にて触れておりますが、5年ごとに計画を見直す中で、御意見を踏まえて検討させていただきたいと思えます。</p>

	<p>ませんが。</p> <p>思春期の難しい時期、しかも卒業学年。全てを仮設校舎で過ごす事になるかとなんでこんなところに住んでしまったのかと、待機児童になった時も、不安で泣いて過ごした事があり、今は、その時のようにパニックになっています。</p> <p>あと、15年も嫌だ嫌だと泣いて過ごすのかと思うとつらくなってきます。</p> <p>大人になるまでの18年のうちの半分の9年間という時間。小中学校、9年間のうち、4年間も建て替え期間に当てられて、新しい校舎を使えない。しかも、難しい思春期時期。建て替え終えた時には、卒業しています。</p> <p>今の一歳の子供の人生は、諦めて、次の子供を作って、そっちの子供に期待したら、と言いたいのでしょうか。残念ながらそんな経済的な余裕は、ありませんし、 [REDACTED] 体力的にも無理です。</p> <p>同じ税金を払っているのに、なんて不公平。小金井市は、私達に引っ越ししてほしいと待機児童になった時にも言われていると思っていましたが、今回もこれが嫌なら引っ越せと言っているのでしょうか。自分の時間をできるだけ使って働いていますが、引っ越しするお金がありません。</p> <p>武蔵野市は、一度に2校の建て替えを行なって早急に建て替えを計画しています。子供達に負担がかからないように、在学中に何度も建て替えに関わらないように建て替えをしています。そして、児童数が増えて</p>	<p>また、仮設校舎に対して不安があるかとは思いますが、仮設校舎といえどもエアコンをはじめ、学校教育に必要な設備（ICTやバリアフリー対応等を含む）を整え、児童・生徒が学校生活に極力負担を感じないような形で仮設計画を考えてまいりますので、御理解いただければと思います。</p>
--	--	--

		<p>いる地域は、指定小学校を変えて、対応しています。</p> <p>三鷹市は、2007年から建て替えをしています。武蔵野市は、2020年からとりかかっています。小金井市は、とても遅いように感じています。</p> <p>第二小学校の児童数は、横ばいであれば、指定小学校地域を増やしたらどうでしょうか、できるだけ、早急に第二小も建て替えをして欲しいです。近所の二小に通う児童から、雨漏りがあり、トイレが古くて使いにくいという話を良く聞きます。9年間の在学中に貴重な、4年間も建て替えに関わって使えないなんて、可哀想です。どうか、建て替えするにしても、ある地域の数学年だけ負担させるのではなく平等に早急に行なってほしいです。</p> <p>小金井市は、子育てするには、これ以上住みにくいと不安にさせないでほしいです。不安ばかりです。本当に他の地域に住む人が羨ましいです。</p> <p>何も言わないで待機児童のときのように泣き寝入りするだけは、嫌なので、パブリックコメントとして送ります。</p>	
15	<p>第3章 学校施設整備方針 (学校施設の目指すべき姿)</p>	<p>1)「第3章 1 学校施設の目指すべき姿」について 今後、市区町村立学校は、総合型地域スポーツクラブや、コミュニティスクール・放課後子ども教室等の活動拠点として、重要な役割を担っていくものなのだろうと考えておりましたが、小金井市においては、そのような視点や動きはあまりないのでしょうか。</p>	<p>学校施設の目指すべき姿について、計画案作成にあたって小学校6年生と中学校2年生の保護者に対してアンケート調査を行いました。その中では、学校の地域役割として何かしらの形で地域の関わりや役割を期待する保護者が90%以上を占めているといった結果が出ています。</p> <p>また、学校に地域の拠点として期待する役割として、小学校では「子供たちの放課後の居場所・活動場所(50.5%)」、中学校で</p>

			<p>は「地域防災の拠点 (37.5%)」が最も高くなっていたという結果がございました。</p> <p>本計画案においても、第3章の学校施設整備方針、2 学校施設整備方針の(4) 学校施設の有効活用 (P30) にて、アンケートの御意見をふまえて地域連携の推進や学校施設の有効活用について記載させていただいているところです。</p>
16	<p>第5章 継続的運用方針 (フォローアップ)</p>	<p>2) 小金井市の、他の社会教育施設の維持・更新の計画と、連動している部分はあるのでしょうか。学校やその他の施設を含めた、地域の社会教育環境・社会教育資源全体を、総合的にアセスメントした計画などがありますか。</p> <p>上記1) でも触れましたが、限りある地域のリソースを、有効活用するための「大きなビジョン」のもとで、校舎の建て替え計画も検討していただければと思います。</p>	<p>本市では、平成29年3月に、市の所有する全ての公共施設等を対象として総合管理計画を策定しています。総合管理計画では財源不足への対応を図るため「総量抑制」と「将来更新費用及び維持管理費の縮減」を基本目標に掲げ、建築系公共施設を機能ごとに分類し、基本的な方針を定めています。</p> <p>学校施設長寿命化計画は総合管理計画で示された基本的な方針を踏まえた学校施設に関する個別施設計画としており、他の公共施設に関する個別施設計画も同じ考え方にに基づき策定しています。</p> <p>学校施設の長寿命化改修・改築工事の実施に当たっては、教育委員会が中心となって検討・推進するものですが、他の子育て支援機能や地域機能など他施設との複合化・多機能化について、児童生徒数の動向を踏まえながら検討することとしており、関係部署と連携・協力しながら進めてまいります。</p>